

保育士の言語スキルと乳幼児の発達を理解

保育の実践や経験年数と乳幼児理解の関連についての一考察

Preschool Teachers' Verbal Skills and Understanding of Children's Development

平 嶋 慶 子*

Keiko Hirashima

鹿児島女子短期大学

A 県内の比較的規模の小さい保育園において、保育士の読みきかせやうた、指遊びといった言葉にまつわる保育の活動の実践や経験年数及び保育スキルについての意識が、乳幼児の発達理解とどのように関連しているか検討した。結果は、担当する乳幼児の十分な理解が基になって、読み聞かせやうた、指遊びの演目の選択が行われていることと、乳幼児の発達（個性や個人差）が保育士の保育活動に影響するが、保育士の日々の読み聞かせの実践には、さらに子ども集団のサイズや保育者間の連携・協働のあり方が関係していると推察できた。

Keywords : Preschool teachers' verbal skills, Verbal development of children, Years of experience, Child care contents

キーワード : 保育士の言語スキル, 乳幼児の言葉の発達, 保育経験年数, 保育内容

1. はじめに

現在、少子化が問題の日本において、家庭と共に子どもの発達を支える就学前保育・教育施設、すなわち保育所や幼稚園などは非常に重要である。18歳未満の子を持つ女性の7割程度が有職業である状況で、保育所、幼保連携型認定こども園や幼稚園の果たす役割は大きいといえる。

就学前保育・教育施設における保育は家庭における子育てといくつかの点で異なる特徴がある。まず、子ども専用の建物・施設設備、遊具・教具・おもちゃを備えていること。次に有資格者・有免許状者が保育・教育にあたること。法律による規定があり無資格、無免許者はほぼ雇用されない。また、保育に計画性があることである。各保育所・幼稚園ごとに保育の計画・教育課程を編成する。最後に、先の3つの特徴が要因となっているのであるが、集団の保育であること。家庭よりはるかに大きい子どもの集団には2つの意味がある。ひとつは経営的な要件から集団の保育が必要である。しかし子どもにとっては集団の持つ意味はそれとは全く異なるものである。2つ目は友だちの存在である。友だちがいるからこそ楽しく遊べるから毎日登園する。子ども集団の中で、他児との関わりが一人ひとりの発達に大きく影響し、また保育者が保育・教育の任にあっている。これが就学前保育・教育施設としての保育所・幼稚園の特徴である集団保育の意味である。

保育所・幼稚園の保育者は、子どもにとって友だちと同じく人的環境としてたいへん重要な存在である。待遇面の問題や人手不足など現場を取り巻くさまざまな課題がある

中で、保育者には専門的知識・技能や倫理観など求められるものは多い。子どもを託す保護者や保育施設の管理者側からいけば一律に高い資質の保育者を求めることは当然であるが、保育者も人であって、どの保育者も最初は初心者としてキャリアを始めて、現場で成長変化していくものである。またチームワークが必要で、保育者同士がそれぞれ補い合って日々の保育が成り立っていると言える。

そこで、保育者としての実践経験や保育内容に関する意識が、保育する子ども理解とどのように関わるか、という視点で一つの保育の現場を考察してみようと考えたのが今回の調査である。その結果を元に、経験年数やスキルの差（違い）が実際の保育行為に反映されるかどうかを次に調べたい。

2. 調査の概要

A 県内に設置認可されたB 保育園がある。定員規模は小さく、職員もB 保育園における勤務年数は短い、それ以前の経験年数が多様であるので対象園として適当であると考えた。

園の概要 定員60名、2月時点で62名入所。

0歳児8名担当保育士3名、1歳児10名担当保育士2名、2歳児19名担当保育士4名、3歳児10名担当保育士1名、4歳児7名担当保育士1名、5歳児8名担当保育士1名。他にクラスに固定されない（便宜上、フリー保育士と表現する）保育士4名と主任保育士各1名で保育を行っている。

クラス編成は年齢別クラスで、保育室もクラスごとである。4歳児と5歳児クラスのみ同室で生活するが、中心となる活動は年齢別のことが多い。

調査の対象（保育士）と調査票： 14名全ての保育士を対象に経験年数や読み聞かせやうた、指遊びの実践や他の保育内容・保育活動に関する意識について「読み聞かせ・指遊び等の調査」質問票（資料1）を作成し、実施した。

調査の対象（乳幼児）と発達の把握： 1歳児10名2歳児19名3歳児10名計39名について、発達全般について遠城寺式・乳幼児分析的発達検査表を基に保育士が発達状況をチェックし、さらに筆者が担当保育士と面談し確認した。

質問票の実施 20XX年Z月第1週後半に記入を依頼した。読み聞かせの調査対象期間はY月第2週目の月～土曜の6日間で、公休などの休みの場合は当然、記入不要である。

乳幼児の発達の把握 調査はZ月第2週目の月曜から金曜までの5日間で実施してもらった。まず、子ども一人についてクラス担当保育士1名とさらに別の保育士1名の計2名による、遠城寺式・乳幼児分析的発達検査表を用いて発達状況のチェックを依頼した。歴年齢相当の検査項目からチェックを始めてもらった（年齢より下に下がって○が3つ続くとそこで打ち切る。上にあがって×が3つ続いたら打ち切る、と言う手順を主任保育士に説明し、かつ担任保育士には手順を書いて渡した）。筆者が対象児29名全員を個別に、保育士同席の上で検査を実施することはほぼ不可能であったので、今回は最低2名でチェックしてもらい、客観性を確保した。さらに発語や発話、要求や指さしなどのコミュニケーションの特徴や生活状況について、特に目立つ特徴があればメモ程度の記入をお願いした。

次に検査表を回収後、対象児全員について筆者がクラス担当保育士と面談し、対象児一人ひとりについて確認した。主任保育士からも情報を得た。

資料「読み聞かせ・指遊び等の調査」質問票（末尾）

3. 結果の分析と考察

保育者の要因として年齢や経験年数、読み聞かせやうたなどの実践結果、保育活動についての意識の3つを考えた。

乳幼児の発達理解については、担当保育士が乳幼児の発達評価をした後、筆者が面談によって保育士の個々の子どもについての表現を聞き取った。

今回分析したのは1歳児クラス2歳児クラス3歳児クラスの乳幼児39名と担当保育士7名である。1歳～3歳児は言語発達の変化が著しく、また個人差も大きい時期なので、保育士が子どもの発達を把握しやすいと考えたからである。そして、歴年齢に比べて発達に開きがある側面が目

立つ乳幼児について、担当保育者との面談によって当該児についての理解を把握した。

3.1 保育士の年齢と経験年数

表1 保育士の担当クラスと年齢・保育士取得後年数及び保育経験年数 に現員のうち回答を得た14名を示す。

今回はまず、1～3歳児の担当保育士を分析対象とした。表中No. 1～No. 7までである。No. 8～No. 14の保育士は分析対象外である。年齢の下段の数字は、保育士資格取得後（正確には保育士証登録後）の年数/保育者としての経験年数（通算）を表している。保育者の経験年数とは、保育所・幼稚園、児童福祉施設などにおける勤務年数を含めたものである。

まず、年齢が低い20歳代の保育士は当然ながら資格取得と経験年数に差がないことが分かる。30歳代以上では取得後の年数より経験年数が少ないケースがある。No. 7や0歳児担当のNo. 9の20歳代の保育士である。通算の経験年数が少なくなる場合とは、一度保育の現場を離職しブランクを挟んで復帰するケースか、取得後すぐには現場に就職しなかった場合であろう。また、固定された担当クラスのない、フリー55歳の保育士は逆に保育の経験年数は30年と長いですが、保育士証登録は2年前であった。

年齢および経験年数のばらつきを見てみると1年～3年の保育士が7名、10年以上のベテランが3名、4～7年の中堅保育士が4名と、経験年数はバランスが良いように見える。年齢については20歳代が8名、30歳代が5名と偏っている。40歳以上は1名のみである。一般的に養成校卒業後の保育者の平均勤務年数（初めて就職してから離職するまで）は5年前後、という調査結果が多い。保育所や幼保連携型認定こども園は常勤・非常勤を合わせると、各年代の保育者数の比率に大きな偏りはないであろう。今回は常勤・非常勤の別は調べていないが、B保育園が開園数年目という事情から考えられる年齢構成である。

資格取得後の年数が経験年数より1年だけ長いという回答は、保育士証登録の実効年度や申請年、養成校卒業の年度を区別していない結果ではないかと推察した。実際は同年数であろうと思われる。

3.2 読み聞かせ・歌・指遊びの保育活動について

No. 1からNo. 7までのクラス担当の保育士の読み聞かせ等を表2-1から表2-6にまとめた。No. 5の保育士は読み聞かせ等の回答がなかった（他の質問には回答あり）ので表はない。

表中に演目をすべて書き込めなかったので以下に個人ごと読み聞かせ、うた、指遊びの演目を記号A～で対応させて記す。

表1-1 1歳児クラス担当保育士 No. 1

A おひさまあはは B ととけっこう C だるまさん シリーズ D おばけだじょ E くつついた F はらべこあおむし G おべんとうバス H もこもこ I いろいろおせわになりました J たまごのえほん K おもちゃのチャチャチャ L かんぱーい M まるまるころころ N くだものだもの O ぱんだちゃん P いないいないばあ

表2-2 1歳児クラス担当保育士 No. 2

A カエルのうた B 雨だればとん C ゆかいなかえる D こぐまちゃんとほっとけーき E ぐるぐるいっぽんゆびではくしゅ F ぐるぐるいっぽんゆびのはくしゅ G おべんとうバス H ねないこだれだ I もうねんね J おやゆびねむれ K ぞうさん L かわいいかくれんぼ M おかえりのうた N 給食の歌 O かたつむり P おばけなんてないさ Q おばけだじょ R くだものだもの S おはなしパチパチ T どうやってねるのかな U いろいろおせわになりました V ととけっこうよがあけた W おひさまあはは X とんでけおおいたい Y ぱんだちゃん Z かばくん a あめふりくまのこ b きらきらほし c りんごころころ d もうねんね e こぐまちゃんとどうぶつ えん f なにしてるなにしてる g もこもこもこ f ぐーとぐーでとんとんとん

表2-3 2歳児クラス担当保育士 No. 3

A いやだいやだ B にんじん C ぱっちりおはよう D きょだいなきょだいな E どんないろがすき F かおかおどんなかお G わにわにのおでかけ H りんごがひとつ I おやすみくーび J おばけのてんぷら K しろくまちゃんのほっとけーき L にんじん M ねないこだれだ N もったいないばあさん O ノンタンぶらんこのせて P おばけだじょ

表2-4 2歳児クラス担当保育士 No. 4

A かおかおどんなかお B どんないろがすき C にんじん D いやだいやだ E きょだいなきょだいな F わにわにのおでかけ G りんごがひとつ H おばけのてんぷら I おやすみターピ J ぱっちりおはよう K しろくまちゃんのほっとけーき L もったいないばあさんとほく M おばけだじょ N ねないこだれだ

表2-5 2歳児クラス担当保育士 No. 6

A かおかおどんなかお B いわしのひらき C きょだいなきょだいな D よういどん E ととけっこう

表2-6 3歳児担当保育士 No. 7

A おおかみと七ひきのこやぎ B 5ほんゆびのはくしゅ C すききらいかいじゅう D そらまめくんのべっど E どすこいばんのまる F おむすびころりん G はじまるよ H りゆうがあります I うさぎさんのおべんとう J ほしぞらのゆうえんち K へっこきよめ L 三びきのこぶた M 五つのメロンパン N おなべとやかんとふらいぱんのけんか O ともだちのひっこし P ともだちや Q 3まいのおふだ R ハンバーグ

S ヘンシンドライブ T ひよこはにげます U いっすんぼうし V さるとかに W いわしのひらき X このゆびとーまれ* 新聞紙でのお話し(新聞紙あそびの活動)(内容不明)

B 保育園のデイリープログラムによると、一斉活動の保育の形態は、0歳児の個別保育を除いて、登園後の自由遊びの後に1回目である朝の会(朝のお集まり)がある。続いて2回目おやつ、3回目中心となる活動(保育)、4回目給食、5回目午睡(おひるね)、6回目お帰りの会(お集まり)と、ほぼ6つの一斉活動がある。回答の実施時間を見ると、ほとんどが一斉活動の始まりに行っている。

読み聞かせはほぼ絵本を用いており(紙芝居は2回、表2-6 No. 7)、うたと指遊びはお話しに比べて回数は少ない。また実演数は保育士によっても偏りがある。うたと指遊びは読み聞かせの直前に行っていて、純粹にうたや指遊びを楽しむ、活動と活動の間の時間調整に遊ぶ、といった用い方は見られなかった。1週間や1日の中で同じ演目(お話しやうた、指遊び)を繰り返しているものが確認できる。特に1歳児と2歳児のクラスである。

1歳児と2歳児クラスは複数担任であって、特に2歳児は19名に対して保育士4名が保育している。お話しについては、2歳児担当のNo. 3, 4, 6 (No. 5は回答なし)が単独の実演か、他保育士の実演の再掲なのかどうか判断がつかない演目があった。表2-3, 表2-4, 表2-5。

1歳児クラスの2名は年齢と経験年数はほぼ同じであるが、読み聞かせやうた、指遊びの演目数と実演回数は16個、18回と32個、71回と、演目数では2倍、実演数ではおよそ4倍の開きがあった(表2-1と表2-2)。お話しや指遊びが好き・嫌い、得意・不得意という意識より、二人の役割分担(週ごとにリーダーと補助を交代する)や勤務のシフト(早出・遅出等)などが理由であろうと思われる。

No. 1が朝の会と午睡後のおやつ時の(牛乳)お話しを担当している。No. 2がおやつやうた、給食の歌、おかえりの歌を担当している。質問票の「皿お話し、指遊び、歌など保育内容に関する意識について」の質問について、実演数の少ないNo. 1は「お話しは好き、だが不得意」実演数の多いNo. 2は「お話しは好き、得意不得意どちらでもない」という回答であった。指遊びについても、お話しと同様、No. 1は、「好悪はどちらでもなく、不得意」また、お勧めの指遊びや季節・行事にまつわるもの、自分なりのジャンル分けをしているかという質問の回答も、個数に倍以上の開きがあった。

特徴的な点はNo. 2が1週間を通して、朝の会で繰り返し同じうたを歌っている。「かえるのう」「かたつむり」「あめふりくまのこ」等、季節にも合わせている。また2人も同じお話しを繰り返し取り上げている。1歳児に身近な生活絵本も読んでいることが分かる。

2歳児クラスは4名の保育士が担当している。No. 5は回答なし、またNo. 6は実演数が極端に少ない。No. 3とNo. 4の保育士でお話しなどを分担しているようである。お話しや指遊びについてNo. 3「好き、得意不得意はどちらでもなし」No. 4お話しはNo. 3と同じであるが指遊びは「どちらでもない」No. 5「お話しは好き、指遊びはどちらでもない」No. 6「どちらも好き、得意」という回答であった。複数担任制であって、お話しや指遊びの分担は、1歳児クラスと同じように、様々な保育活動をする中で勤務シフトやリーダーと補助の分担などの理由によって、このような1週間の結果になっているのであろう。

回答されていないが生活のうた（おやつ、給食、おかえりのうた）は必ず毎日歌うと推測するがそれ以外のうたがが少ない。普通、指遊び・手遊びをする際もうたは歌うが、指遊びも回答はない。弾き歌いの技能（ピアノ）とも関係しているかもしれないが、今回の質問票にはピアノの得意不得意を問う項目は入れなかった。

3歳児担当のNo. 7は、ほぼ毎日4回読み聞かせを行っている。指遊びは朝の会で毎日1回のみ。うたは2歳児クラスと同様に回答がない。他の年齢クラスと比べて、はっきりした特徴がある。それは、お話しや指遊びの演目が毎回異なることである。1日の中で、1週間で演目の重複が1回もない。また日本の民話や昔話を1日1～2回取り上げていく。さらに、ストーリー展開のあるやや長いお話しを読んでいる。3歳児の子どもたちの興味や理解力に相応のものを選んでいくと思われる。質問票の記入によるとお話し、指遊びは「好き」で楽器あそび、運動遊び、製作遊びが得意、不得意な活動は表現遊びである。

3 乳幼児の発達の把握について

1歳児10名、2歳児19名、3歳児10名について遠城寺・乳幼児分析的発達検査表を基に、幼児一人について保育士2名でチェックしてもらった。その後筆者がクラス担任と面談して不明な点などを補った。

1歳児は10名中2名が1歳7か月（以下1：7）と1：10で他の8名は2歳を超えており、最年長は2：3ある。2歳児19名中6名が3歳を超えている。最年長は3：2である。3歳児10名中2名が4歳を超えていて最年長は4：1である。

ほとんどの幼児が年齢相応の発達を示していた。1歳と3歳の年齢クラスで目立つ特徴は、移動運動（粗大運動）について年齢よりも12か月以上の発達を示す幼児が半数程度いたことである。逆に2歳児クラスでは、移動運動の発達が歴年齢よりも下まわる幼児が半数以上であった。評価に関わった保育士が4名と多かったため、判断がより正確を期して厳密厳格になったのかもしれない。

2歳児クラスの男児1名（3：1）が1歳半から療育を受けている。遠城寺式・分析的発達検査表を基にチェックした結果から約1年9ヶ月ほど暦年齢を下回っていた。1名の2歳9か月の男児は歴年齢に比して平均7ヶ月程度下回っていた。他には平均6か月以上の遅れを示す幼児はみられなかった。さらに一部の幼児には、遠城寺式・分析的発達検査表の各側面のプロフィールで、個人内差が大きいものが見られた。今回は発達の様相が特徴的な幼児をケースとして取りあげ、担当保育士のその幼児についての理解やかかわりの持ち方に特徴が見られないか、ケースごとに示すことにした。

担当保育士との面談で当該幼児について、言葉や要求、他者との関わりなどの特徴をどのように把握・理解し、表現するかを聞き取った内容を以下にまとめる。

a 1歳児：1歳10か月。女児。

発語は1：1相応。理解は1：5相応。プロフィールから見ると典型的な発語の遅れを示している。

担当保育士によると①「理解力はある」とのことである。②3人姉妹の3番目で家庭では母親を含め、本人の意思表示を先取りして構っている状態である。③スタンプ遊びが巧くできない。

b 1歳児：1歳7か月。男児。

発語は0：9相当。理解は1：4相当。移動運動、：3、手の運動1：5、基本低習慣は1：5で「お菓子のつつみ紙をとって食べる」は（-）である。

担当保育士によると①意味のある発語（-）②理解はあのように思う。③4月に入園したばかりで歩行が赤ちゃんぽい。④発声は少ない。

筆者は本児の歩行を直接観察できなかったが推察するに、歩行姿勢は手首の位置がミドルガードで、足首の関節の動きが少ない（足裏全体で接地する）歩様なのかもしれない。

特筆すべきは、保育者の関わりとして、二人の保育士で協議して、最近の2週間、保育士No. 1（面談保育士）が本児と個別に重点的に関わった。一方保育士No. 2が他の9名を分担した。その結果本児の状態に変化が見られるようになったとのことである。変化は①保育士の声掛けに反応する。②指さし+発声は1日1回ぐらいの頻度で生じる。③ジェスチャーで伝えようとする。④動きを真似たりするが、まだ発語にならない。

以上から本児の発達状況をまとめると、発語の遅れがあると言える状態であるが、対人関係の側面の発達は暦年齢相応で、また特定の保育士との相互作用が増えた結果、コミュニケーション能力が伸びつつあると言える。

1歳児クラスは経験年数が少ない保育士二人で保育しているが、集団の規模（クラスのサイズ）から見ても子ども

個々について十分な理解と丁寧な働きかけができていられると思われる。お話しやうた、指遊びの演目の取り上げ方から見て、幼児の理解の程度に合わせた、また繰り返しを楽しめる保育をしていることが見て取れる。

c 2歳児：2歳3か月、男児。

発語1：3相当、理解1：6相当の状態である。自発発語が3個、発語が暦年齢に比べて約12ヶ月の差がある状態である。始歩1歳6か月過ぎで移動運動もやや遅めであった。

保育士によると①指さしやジェスチャーで伝えることができる②集団の活動についていける。ただし甘えがあるのか、イヤイヤ出るが個別に関わると自分で動いて活動する。

d 2歳児：2歳5か月、女児。

発語1：1暦年齢より約12か月下回っている。(移動運動1：10.5相当)

担当保育士によると①小柄で、活発に動くが歩きや走る動ききか他児と違う。②言葉で伝えようとするがなかなか出てこないで怒ることがある。

担当保育士は、発語が暦年齢よりは下回っているが「関わりや保育が難しい幼児である」という理解は持っていない。

e 2歳児：2歳8か月、男児。

基本的習慣と対人関係が2：1.5相当。発語と理解1：7.5相当。排尿の予告(-)、社会性と言語の側面が暦年齢に比して12ヶ月下回っている状態である。

担当保育士によると①かみつきが見られるが最近頻度は下がっている。②他児を押ししたり大声を出すなどする。③おむつ替えを嫌がる。④保育士が1対1で関わり言葉かけをすると反応する。しかし理解して聞いているかという点と不明である。⑤思いが通らないと叫ぶ。

保育士の理解は、本児の社会性や言語発達が暦年齢を下回っていることより、19名のクラス集団の中では騒ぎの核に注目している。

f 2歳児：2歳9か月、男児。

移動運動2：1.5、手の運動1：10.5相当。対人関係1：10.5相当。発語1：4、理解1：10.5相当。排尿の予告(-)、二語発話(-)で平均して7か月程度暦年齢より下回っている状態である。

担当保育士によると①言葉の遅れがある。②関わる相手の肩をたたいたり(触るとい程度か)、指さしやジェスチャーで要求を伝えることができる。③保育の活動にはあまり興味を示さない。④不器用である。

本児の発達状況について、保育士の表現からは言葉の遅れが主であると受け止めているようであった。本児にとっては、19名のクラス集団の中で有意な相互作用が不足して

るのではないかと推測される。

g 2歳児：3歳1ヶ月、男児。

発達は暦年齢に比して12ヶ月以上下回っている状態である。1歳半から保育所保育と療育を併用している。

担当保育士によると①言葉が出ないので自分の意思を伝えることができないが、表情を変えたり、相手をつまんだりして伝えている。

他者と関わろうとする社会性やコミュニケーション能力を少しずつ伸ばせるよう、丁寧な関わり(保育)が必要であるように思える。本児が集団の活動や生活をどの程度理解して参加しているのか、4名の保育士が本児についての理解を共有しているか、どのように連携協同して保育しているか、面談した3名の保育士から筆者が確実に聞き出せなかったことは反省点である。

2歳児クラスの幼児について、面談した担当保育士はNo. 3、No. 4、No. 6の3名同席であった。集団のサイズが19名と2歳児クラスとしては特に問題はないと思われるが、明らかに暦年齢に比して発達が下回っている幼児2名が、この集団の中で十分な体験を得ているか、保育園で楽しく充実した生活ができているか、頻回な保育の評価が必要であろうと思われる。

また、お話しやうた、指遊びの実演内容や回数から見て、2歳児にとって概念を獲得することに貢献したり、ごっこ遊びの契機ともなる、お話しやうた、指遊びが量的にやや少ないように思える。さらに運動能力や理解力などの側面で個人差の大きなこのクラス集団にとって、演目のバラエティーが不足しているように思えた。

h 3歳児：4歳0ヶ月、男児。

対人関係2：10.5相当である。発語と理解は年齢相当の状態である。

担当保育士が気にしている本児の特徴は、①相手の言葉が理解出来ず、自分なりに解釈してしまうこと。②自分の気持ちをうまく言葉で表現できないことがある。

理解力や発話の様子に問題はないようであるが、担当保育士は、ことばによる表現が弱いと捉えていることが分かる。担当保育士が面談時に補足した点であるが、個別に確認し、促すと友達と協力して活動することができる。自分から他者と関わりを持つ、働きかけることが他の側面と比べてかなり弱い状態である。その理解を踏まえて、担当保育士は本児にタイミングよく関わり援助する必要性をしっかりと意識して保育していることが分かる。

まとめ

クラス編成の個別の事情や、保育士の配置、複数担任の保育士同士の相性など、変数として取り上げようにも実際的には手の付けられないものの影響を排除しつつ、保育職

の経験年数や保育内容の一領域である読み聞かせ活動の効果などを調査し、子ども理解との関連や乳幼児の発達変化をダイレクトに検討することは、今回の調査手法では不十分であった。しかし少なくともB保育園の1週間の保育現場から、暦年齢に比べて「発達の様相がゆっくりした」幼児と保育士の子ども理解を通じて、いくつか読み取れたように思われる。

読み聞かせについて、どの年齢クラスにおいても、1日の保育の中で複数回実施されている。自由活動の終わりと一斉活動の始まりの区切りをつけ、また純粹に幼児がお話しや指遊びを楽しむ活動として、毎日行われている。うたは生活のうたが中心である。読み聞かせや指遊びなどに共通して言えることは、演目は保育士が担当する幼児一人一人についての理解を基に選択されている。それは表2-2～表2-6にあるように、1歳児クラスの演目と2歳児クラス、3歳児クラスの演目の違いから理解できる。このことと保育現場の経験年数が直接関連するのか、今回の調査方法で検討することは不能であった。

同年齢のクラス編成であれ、異年齢混合クラスであれ、幼児の発達の相違（個人差）や個性が保育士の保育活動に大きく影響を及ぼすことは明らかである。そこで子ども集団のサイズや保育士間の協同・連携という要因が読み聞かせ等の活動にも影響していることがわかった。保育者がそれぞれ持っている保育スキルを發揮できるか、その機会が毎日の保育の中にあるか、という要件が逆に保育士のスキル発達を制限したり、あるいは伸ばすだろうということも同様に推察できる。

参考文献

- 1) 「保育者のための言語表現の技術 一子どもとひらく児童文化財をもちいた保育実践一」 古橋和夫編著 萌文書林 2017年

(2018年8月2日 受理)

質問票と表

「読み聞かせ・指遊び等の調査」質問票

「読み聞かせ・指遊び等の調査」質問票

序 調査の目的

(省略)

I 保育士資格取得年や保育士の経験年数について

1 お名前 _____

*イニシャルでお願いします。

2 年齢 _____ 歳

*もしくは保育士資格取得後 _____ 年経過

3 保育士資格取得年 _____ 年

*養成校、国家資格試験の区別はありません。

4 取得後の保育士（幼稚園等も含む）としての勤務経験年数 _____ 年

*保育園・幼稚園・障害児通所療育施設・児童デイサービス、学童保育・無認可保育施設・企業内保育所・児童養護施設、乳児院など乳幼児や児童の保育に携わった、**通算（合算）**の年数を記入してください。

II 平成30年6月第3週の月曜日～土曜日の期間中に読んだ、お話しや指遊びの実態調査

5 現在の担当クラス _____ 歳児 _____ 名

*フリーの場合は次の6の各日の箇所に、担当した年齢クラスを記入ください。

6 先月第3週（11日～16日）に読んだ絵本・紙芝居など（お話し。他にペーパースート、パネルシアター、DVDなども含みます）、用いた（遊んだ）指遊びやわらべ歌などをすべて、思い出せる範囲で記入ください。その場面（シチュエーション）や時間帯も書いてください。例えば朝のお集まり、中心となる活動、昼食の前や後、お昼寝の前や後、お昼寝後のおやつ時間、お帰りのお集まりの始め、など。

またルーティーンで同じものを毎日する、1日複数回した場合も、その都度書いてください。

公休日は記入不要です。

6月11日（月）（フリーの方：担当した _____ 児クラス）

6月12日（火）（フリーの方：担当した _____ 児クラス）

6月13日（水）（フリーの方：担当した _____ 児クラス）

6月14日（木）（フリーの方：担当した _____ 児クラス）

6月15日（金）（フリーの方：担当した _____ 児クラス）

6月16日（土）（フリーの方：担当した _____ 児クラス）

Ⅲお話し、指遊び、歌など保育内容に関する意識について

以下の質問項目について、①アタマの文に続いて浮かんだご自分の思いや考えを書く ②どちらか当てはまるものを選択してマルで囲む ③自由記述 などの回答方法を指定しています。

深く考え込まず、最初に頭に浮かんだ内容を回答してください。

絵本・紙芝居、その他の媒体を用いたお話しについて

- 7 自分はお話しが **好き** ・ **どちらでもない** ・ **嫌い**
- 8 自分はお話しが **得意** ・ **どちらでもない** ・ **不得意**
- 9 ①思い出の絵本(お話し)、②普段読むオススメのお話しを紹介してください。
- 10 季節や行事・イベントに合わせて、あるいは何かの意図を持って子どもたちに読み聞かせる絵本などを紹介してください。
- 11 人形劇やアニメ(TVや劇場公開)、幼児番組、マンガ、ゲーム、ヒーロー物など好きな(好きだった)ものをすべて挙げてください。テーマソング(アニソン)も

指遊び、手遊び、わらべ歌、ふれあい遊びについて

- 12 自分は指遊びが **好き** ・ **どちらでもない** ・ **嫌い**
- 13 自分は指遊びが **得意** ・ **どちらでもない** ・ **不得意**
- 14 オススメの指遊びを紹介してください。
- 15 季節や行事・イベントに合わせて、あるいは何かの意図を持って用いる/子どもたちと遊ぶ指遊びを紹介してください。
- 16 指遊びについて、自分なりのジャンル分け(数、大小、見立て、動物や虫・植物、ストーリー性のあるもの、など)を持っていますか?あれば具体的に書いてください。

制作(つくり遊びや型染め等)、運動遊び、表現遊び、粘土・砂・水・泥んこ遊び、受容遊び(お話しなど)、ゲーム、ごっこ遊び、ピアノ(楽器)演奏や歌などの保育活動について

- 17 自分の得意な保育活動は
- 18 自分の不得意な保育活動は
- 19 保育についてのこだわりや思いはありますか?(自由記述、分量は自由)

